

正副議長記者会見について（報告）

1 定例会の総括について

今期定例会は、8月24日から9月28日までの36日間の会期で開催した。

【市長提出議案について】

- ・市長から提出された案件は、人事案件を含め、計32件を可決した。

【議員提出議案について】

- ・『同一労働同一賃金』の実現を求める意見書」等、計7件を可決した。

【平成27年度各会計決算の認定について】

- ・9月2日に平成27年度決算審査特別委員会を設置し、付託された各会計決算議案10件について、21日まで審議を行い、各会計決算議案を認定した。
- ・本市の平成27年度決算は、普通会計の実質収支は21億1,000万円と36年連続の黒字となり、地方公営企業会計基準の見直しの影響を除けば、すべての会計において、実質収支・資金収支は黒字を確保された。
- ・健全化判断比率の指標においても政令指定都市でも高水準を維持しており、健全な財政運営を堅持している。
- ・しかしながら、財政の弾力性を示す経常収支比率は96.9%と昨年度より1.6ポイント悪化していることから財政構造の硬直化が懸念される。さらに、市税収入の横ばい傾向が続く一方で、社会保障関係費は年々増加傾向にあるなど、厳しい財政運営が予想される中、質の高い行政サービスを安定して提供し続けるためには、将来を見据えた改革や、公民連携などの新たな活力による改革など、新たな視点での行財政構造の改革に取り組んでいるのか、議会としても、より一層注視し、監視機能を強化するとともに、引き続き真摯な議論を重ねる必要があると考える。

【平成28年度堺市一般会計補正予算（第2号）について】

- ・主に3点の補正予算が計上され、各常任委員会での審議を経て、28日の本会議において可決された。

①泉北高速鉄道通学費負担軽減事業について

- ・本事業は、かねてから議員の多くが要望していた泉北高速鉄道と南海高野線の乗り継ぎ通学定期利用者の負担軽減を図るために計上された補正予算（1,985万1,000円）である。
- ・本事業については、議員から「本市の子育て支援施策としても重要な事業であること、また、補助を活用するには、鉄道利用者からの申請が必要であることから、利用者等への周知徹底を求めるとともに、子育て世代の定住を促すためにも、さらなる利便性の向上を求める」との考えが示されるなど、活発な議論が行われた。

②原池公園事業について

- ・本事業で計上された補正予算は、野球場を含む第3期の公園整備費にかかる債務負担行為であり、57億5,600万円である。
- ・本事業及び今後の公園整備のあり方については、議員から「公園施設単体ではなく、公園全体、あるいは公園を含む一定のエリアのにぎわいを創出し、建設費用や維持管理費用を事業者も担い、事業収益を得る新たな公民連携による稼ぐ力を備えた公園整備の視点で、市民・事業者・行政のそれぞれがウインウインの関係を築くことができるパークマネジメ

ントの取り組みが必要である」との考えが示されるなど、議論が交わされた。

③放課後児童対策事業等について

- ・本事業等で計上された補正予算は、放課後児童対策事業（のびのびルーム）、堺っ子くらぶ、放課後ルーム事業の来年度入札等の準備として計上された債務負担行為であり、合計44億8,700万円である。
- ・本事業等については、9月9日の文教委員会において審議され、委員から「民間事業者は、ノウハウや企画力など特色を活かした運営内容により安定的な運営がなされている実績があり、受託者の公募に関してプロポーザルの手法を活用することで、事業者それぞれが持つ企画力などを導入することができ、よりよい放課後児童対策事業の推進が図られる。」などの意見が出され、議論が重ねられた。

【泉州水防事務組合の解散及び財産処分に関する協議について】

- ・本件は、組合を構成する本市、高石市、泉大津市、忠岡町において、今後の水防体制のあり方について検討を重ねてきたが、構成団体それぞれにおいて水防責任を果たすことが可能であること、また、泉州地域の9市4町で泉州地域災害時相互応援協定を締結するなど相互の連携も広域的に拡大されていることから、水防事務に関し、共同処理を行う必要はなくなったとの結論に至り、平成28年12月31日をもって泉州水防事務組合を解散することについて、協議を行うため提案されたものである。
- ・本件については、議員から「3市1町の本組合から、泉州地域の9市4町に連携が広がったことは評価できるものの、協定だけでは実効性が不透明である。さらに、災害時における相互応援に関する活動の実効性をより高めるためには、協定をより強化していく必要があり、新たな広域連携制度も含めた自治体間での水平連携が必須である」との考えが示されるなど、議論が行われた。

【全会一致の意見書について】

- ・今期定例会で可決した意見書は7件である。
- ・このうち、全会一致で可決された意見書は以下の4件である。
 - 「『同一労働同一賃金』の実現を求める意見書」
 - 「返済不要の『給付型奨学金』の創設及び無利子奨学金の拡充を求める意見書」
 - 「有害鳥獣対策の推進を求める意見書」
 - 「尖閣諸島周辺における中国艦船などの領海侵犯に対し、毅然とした対応を求める意見書」

2 第6回議会報告会の開催について

- ・議会報告会は、議会活動に関し、議員が直接参加者に報告し、説明することで、議会への関心を高めてもらうとともに、参加者から議会や市政への意見を直接伺い、また、意見交換することで、これからの議会活動に反映させ、議会の権能を更に高めることを目的に開催するもので、今回で6回目の開催となる。
- ・前回、昨年10月25日に開催した第5回目の報告会でも、多くの市民の方に参加いただき、活発な意見交換をさせていただいた。
- ・第6回議会報告会の概要について
 - ①10月30日（日曜日）午後1時30分から2～3時間の予定で開催する。
 - ②会場は、本会議場と委員会室の両方を使用する。
 - ③第1部は、本会議場において、参加者に議席に着席してもらい、議員が理事者席に座り、8月定例会で審議した、平成27年度各会計決算認定議案などの審議結果の報告を行う。
 - ④第2部は、委員会室へ移動し、6つの常任委員会単位のテーブルに分かれ、参加者が、申し

込みの際に希望し、設定されたテーマについて、実際の委員会所属議員と自由な意見交換を行う、ワールドカフェ方式としている。

- ・議会報告会は、平成25年4月に施行した、堺市議会基本条例の規定により開催している。今後も、より開かれた議会をめざし、工夫をしながら開催していきたい。

3 記者からの質問に答えて

【政務活動費について】

- Q 政務活動費の問題について、全国に広がりを見せているが、こうした問題に対し、議会としてどのように取組みを強めていくか。
- A 堺市においても、住民監査請求を含め、多くの事象が起こった事実があり、より支出の透明度を高めようとする中で、平成28年度も運用指針の改正を行ったところである。これからも議会力向上会議で協議をしながら、より透明性を高め、市民に対し、適正に政務活動費を支出していることを示していきたいと考えている。
- Q 来年度から領収書等のインターネット公開の実施を決定したが、大阪維新の会と日本共産党だけは、既に会派の判断でインターネット公開を実施しており、チグハグ感があるが、どう考えるか。
- A 堺市議会では、領収書等のインターネット公開は実施していないが、以前から市民の方に足を運んでいただければ、自由に閲覧できるようになっている。既に市民に公開になっているものを、大阪維新の会と日本共産党は、会派の中でインターネット公開を決められたことなので、その辺りは御理解いただきたい。
- A (副議長) 大阪維新の会と日本共産党については、会派での意見調整の中で、平成27年度分から公開することを決められたと聞いている。そこは会派の事情があったのではないかと考えている。ただ、議会全体のインターネット公開の流れの中で判断したと解釈している。

【地方議会議員年金制度の復活に反対する意見書について】

- Q 最終本会議において、議員年金について、非常に激しい議論が会派間であったが、どのように考えるか。
- A 議論の中でもあったように、意見書そのものが、文言を含めて完璧なものではなかった。また、廃止前の特権的地方議会議員年金制度の復活を考えているわけでもないため、復活という文言についても議論があった。いろいろな議論がなされたところであるが、賛成少数で否決された。これからもこの問題については、議論をしていくべきだろうと思っている。

【議会フロアの喫煙所について】

- Q 議会運営委員会で引き続き協議の扱いとなったが、どのように考えるか。
- A 議会事務局に、他の政令指定都市の議会フロアの喫煙状況を調べてもらったが、状況はバラバラであり、本市議会においても、いろいろな意見があった。大阪維新の会は、早く結論を出すことを希望していたが、次期定例会において条例提案も含めて決着がつくのではないかと考えている。分煙はしっかりできており、その辺りも踏まえ、会派等の中で十分な議論をして結論を出していきたい。
- Q 市長は記者会見において、「議会で決めること」を前提としつつ、建物外の喫煙が望ましいというニュアンスの話をしていた。分煙という意味では問題ないのかもしれないが、バランスに欠ける気がする。どのように考えるか。
- A 市民目線もよくわかるが、既に設置されている。これから各会派等の意見を調整しながら進めていくしかなく、早期に結論を出したいと考えている。